

(こども版) としょかんだより No.251

# わくわく本だな

2005年

1月号

富山市立図書館 富山市丸の内1-4-50 電話 076-432-7272

## とみやす ようこ 富安陽子の本

富安さんは、小さい時から作文を書いたりお話を読むことが好きな少女でした。おばあちゃんから妖怪の話ようかいを聞いて育ち、キツネやネコ、不思議ふしぎないきものが登場する物語をたくさん書いています。お母さんは富山生まれだそうです。

### 「タコのオクトくん」(えほん) ポプラ社

タコのオクトくんは、初めて一人で海を出て、陸りくに出かけました。お父さんとお母さんの大好きなナスビをとりに行くのです。

### 「キツネのまいもん屋」

新日本出版社

ひさしがキツネの子につれていかれたのは、まいもん屋(だがし屋)でした。そこでクジをやったひさしは、すごいものを当てます。

### 「小さなスズナ姫シリーズ」 偕成社

#### 1. 小さな山神スズナ姫

スズナ姫ひめのお父さんは山の神様です。誕生日たんじょうびに小さなスズナ山をもらうには、スズナ姫は山全体を1日で紅葉こうようさせなければなりません



#### 2. スズナ沼の大ナマズ

#### 3. 大雲払いの夜 4. くらやみ谷の魔物

### 「ムジナ探偵局シリーズ」 童心社

1. ムジナ探偵局
2. なぞの挑戦状
3. 闇に消えた男
4. 満月池の秘密
5. 本日休業

「あと7日むすめで娘がとり殺される」

源太ねこは猫たちの不吉な会話を聞きました。十数年前、子猫が殺されたことに関係あるらしい。猫のたたり?それとも…。

### 「ドングリ山のやまんばあさん」

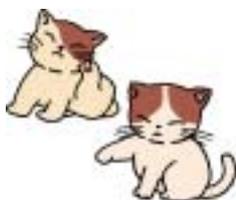
### 「やまんばあさん海へ行く」 理論社

ものすごく元気でおそろしく力持ちの、296歳のやまんばあさんが、大かつやくするお話です。

### 「だんだら山のバク博士」

理論社

まちがって夢の世界に入ってしまったあきは、「眠り鬼ねむおに」という魔物まものが封じこめられていた鏡かがみを割わってしまいました。



# あたらしくはいった本

= 1・2年

= 3・4年

= 5・6年

## えほん

「ハムスターのハモ」 たかお ゆうこ / 作 福音館書店

ケイちゃんがかっているハムスターのハモは、夜になるとみんなねてしまうので、ひとりぼっちになります。ある夜、ハモはおもいきってケージから外にとびだしました。家の中をたんけんしていると、せんたくきの奥で、ケイちゃんのこわれたロボットをみつけます。



## ものがたり

「カンガルーおばさんのおかいもの」 岩佐 めぐみ / 作 講談社

ららちゃんは、はじめてひとりでおかいものに出かけました。とちゅうで、ぴょんぴょんとジャンプしているように歩くふしぎなおばさんに会いました。お店で買ったものは、ぜんぶポケットにしまうのです。そして、おばさんはららちゃんまで、ポケットにいれてしまいました。

「こわがりうさぎのホッピーくん」 エリザベス・ショー / 作 徳間書店

こうさぎのホッピーはこわがりで、いつもびくびくしているためだれもあそんでくれません。ある日、村にわるもののきつねがやってきて、小さなウリがつかまってしまいました。ウリが食べられてしまうと思ったホッピーは、思わずきつねのしっぽにしがみついたのです。



「トンでるカラス」 梅田 俊作・佳子 / 作 ポプラ社

燃えないゴミでできた島に住むカラスのアアは、ほしいものは何でも手にはいりいつもごきげんでした。ところが、ねぐらだった電話ボックスが、ゴミの山でうまり、すべてをなくしてしまいます。

新しいすみかを、むかし母ちゃんから聞いた<sup>ほうせき</sup>宝石の木にきめたアアは、さっそくさがしにでかけるのですが…。とぶことをわすれていたカラスの、トンだ物語。



「ガンブ 魔法の島への扉」 エヴァ・イボットソン / 作 偕成社

ロンドンにある駅の十三番ホームにある<sup>ひみつ</sup>秘密の入り口の扉、それがガンブ。

9年ごとに9日間だけ開くというふしぎな扉なのです。

ガンブをくぐると、そこには《島》とよばれるすばらしい世界があります。

扉が開いた日、島で生まれたばかりの王子が、つれさられてしまいます。

9年後、王子をさがすため、島から4人の<sup>きゅうしゅつしゃ</sup>救出者たちが、ロンドンにおくりこまれました。

「Q&A天気なんてだろ劇場」 岩田 総司/文 岩崎書店

「アメダスってなに？ 積雪はどうはかるの？」など、お天気についての子どもたちの疑問に、気象予報士の岩田さんが、わかりやすく答えてくれます。

“なんてだろ劇場”のはれお君や、にじ子ちゃんたちといっしょに、みんなもお天気博士になりませんか。



## とりの本

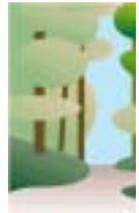


ニワトリという呼び名は「庭の鳥」からきています。

今年はとり年。ニワトリにちなんだ楽しい本を紹介し<sup>しょうかい</sup>ます。

「チャボのオッカサン」(えほん) ボブ・ブラハム/作 評論社

パパが、みずうみの中でおぼれそうになっていたチャボを家につれてきました。ママは、「チャボにも家族があったはず」と、もといた農場にかえしました。ところが次の日から、チャボが家にたずねてくるようになります。



「トロールのばけものどり」(えほん)

イングリ・ドーレア, エドガー・ドーレア/作 福

山のトロールが飼<sup>か</sup>っているのは、農場の動物をさらっていくおそろしいばけものどりです。4人の子どもは森の中でこの鳥に出くわしてしまいました。

「はんぶんのおんどり」 ジャンヌ・ロッシュ=マゾン/作 瑞雲舎

ある男が、「わしが死んだら、財産はなんでも半分づつ、なかよくわけてくれ」と2人の息子<sup>むすこ</sup>に言い残<sup>な</sup>して亡くなりました。ところが、兄さんが弟に与えたものは値打ちのないものばかり。そしてさいごに、1羽のおんどりまで半分に切ってしまう。

「めんどり母さんがあぶない! リトル・グレイラビット 7」

アリソン=アトリー/作 偕成社

めんどり母さんは、さわがしい牧場をはなれ、かしの木の家で卵<sup>たまご</sup>をうみました。ところがキツネがそれをかぎつけて、家のかげでまちぶせしています。

「わたしはめんどりコッコです」 森 はな/作 金の星社

わたしはひよこの時にアキヒコくんを買われました。コッコと名前をつけてもらい、だいにそだてられました。そのうち、たまごをうんだので、家のみんなはおよろこびです。



# しいたい しらべたい



今年は、とり年なので、ぜひヒナからニワトリに育ててみたいと思います。かいかたや、小屋の作り方などについてくわしく書かれた本はありますか。

次の本などで調べることができます。

- 「ニワトリの絵本 そだててあそぼう20」 やまがみ よしひさ / 編 農文協
- 「飼育と観察 ニューワイド学研の図鑑」 学研
- 「動物・小鳥のかいかたそだてかた」 成島 悦雄 / 文 岩崎書店

## シリーズしょうかい

「しろいやみのはてで あらしのよるに 特別編」(えほん) きむら ゆういち / 作 講談社  
ふぶきのよる、オオカミのガブとヤギのメイは、はじめて出会ったときのことを思い出しました。



「あらいくんとブタのぶたどころさん」 たかやま えいこ / 作 金の星社  
作文で「大きくなったらなりたいもの」を書くことになりました。あらいくんがなかなか書けずにいたら、ぶたどころさんが「アイドルかしゅになりたい」といったのです。

「まじょ子とラブラブメロディの国」 藤 真知子 / 作 ポプラ社  
オンチをなおすために、メロディの国にきたまじょ子たち。でも、なおしてくれるはずの王女さまが、「オンチかぜ」になってしまい、王女さまのかわりに仕事をすることに…。



「フレディ 5  
ハムスターのタイムトラベル大冒険」  
ディートロフ・ライヒェ / 作 旺文社  
ゴルドーニ博士の息子すくを救うため、フレディたちは、ロボットハムスターといっしょに、タイムマシーンで過去かこの世界へやってきました。そこで、フレディはかわいいハムスターの女の子と出会います。

「忍者キッズ 7 しるびよる強敵」

齊藤 栄美 / 作 ポプラ社  
仲間なかまが9人になって、修行しゆぎやうにはげむ忍者にんじゃキッズたち。トビーの高所恐怖症きやうふしやうをなおそうと、彩葉いろはが必死ひっしに特訓とっくんしていたころ、おそろしい敵てきがナッキーの心しんに忍びこんでいたのです。

1 がつ

おやすみのひ

1月1日(土) ~ 4日(火)

1月10日(月・祝) 1月17日(月)

1月24日(月) 1月31日(月)